

事例番号:340013

原因分析報告書要約版

産科医療補償制度
原因分析委員会第一部会

1. 事例の概要

1) 妊産婦等に関する情報

初産婦

2) 今回の妊娠経過

特記事項なし

3) 分娩のための入院時の状況

妊娠 37 週 2 日

9:30 骨盤位のため帝王切開目的で入院

4) 分娩経過

妊娠 37 週 2 日

13:59 帝王切開で児娩出、骨盤位

5) 新生児期の経過

(1) 在胎週数:37 週 2 日

(2) 出生時体重:2300g 台

(3) 臍帯動脈血ガス分析:pH 7.3、BE -0.2mmol/L

(4) Apgar スコア:生後 1 分 9 点、生後 5 分 10 点

(5) 新生児蘇生:実施なし

(6) 診断等:

生後 6 日 退院

生後 17 日 鼻づまり、息苦しそうな症状あり

生後 18 日 活気不良、呼吸窮迫症状、低血圧が出現

静脈血および髄液の細菌培養検査で GBS (B 群溶血性連鎖球菌)
を検出

髄液検査で髄膜炎の診断

生後 20 日 血液検査で炎症所見 (CRP 22.29mg/dL) を認める

(7) 頭部画像所見:

生後 7 ヶ月 頭部 MRI で液状化を呈し部位の特定も困難な状態であり、
細菌性髄膜炎の所見

6) 診療体制等に関する情報

(1) 施設区分: 診療所

(2) 関わった医療スタッフの数

医師: 産科医 2 名

看護スタッフ: 助産師 1 名、看護師 2 名、准看護師 1 名

2. 脳性麻痺発症の原因

(1) 脳性麻痺発症の原因は、GBS (B 群溶血性連鎖球菌) 感染症により敗血症性ショックおよび細菌性髄膜炎を発症したことであると考える。

(2) GBS の感染時期および感染経路は不明である。

3. 臨床経過に関する医学的評価 (2020 年 4 月改定の表現を使用)

1) 妊娠経過

(1) 妊娠中の管理は一般的である。

(2) 妊娠 35 週に膣分泌物培養検査を実施し、GBS 陰性であることを確認したことは一般的である。

2) 分娩経過

(1) 妊娠 36 週 3 日、骨盤位のため帝王切開の方針としたことは一般的である。

(2) 入院時の対応 (バイタルサインの測定、血液検査、分娩監視装置装着) および帝王切開中の管理は、いずれも一般的である。

(3) 臍帯動脈血ガス分析を実施したことは一般的である。

3) 新生児経過

出生後から退院までの新生児管理は一般的である。

4. 今後の産科医療の質の向上のために検討すべき事項

1) 当該分娩機関における診療行為について検討すべき事項

なし。

2) 当該分娩機関における設備や診療体制について検討すべき事項

なし。

3) わが国における産科医療について検討すべき事項

(1) 学会・職能団体に対して

遅発型 GBS 感染症に対する疫学的調査、予防・診断・治療に対する知見の集積が望まれる。

(2) 国・地方自治体に対して

なし。